

視察報告書

令和元年7月24日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 米田 勝彦



政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 ■令和元年7月17日(水) から令和元年7月19日(金) まで
- 2 視 察 先 ■愛別町役場：北海道上川郡愛別町字本町179
■稚内市立宗谷中学校：稚内市大字宗谷村字清浜
■稚内市役所：稚内市中央3丁目13-15

- 3 視察議員名 ■米田勝彦・佐々木敬敏

- 4 面 会 者 ■別紙「名刺写し」のとおり

- 5 視察目的
 - ハッピーボーンについて
 - 君の椅子について
 - デマンドバスについて
於愛別町役場
 - ふるさとに学ぶ産業教育について
於稚内市立宗谷中学校
 - 放課後学カグンゲン塾について
 - 第二次稚内市子どもの読書活動推進計画について
於稚内市役所

- 6 視察の経過及び感想
 - 「視察の経過・感想」のとおり

- 7 添付書類
 - 視察先提供資料

要した経費： 2人合計 278,920 円

令和元年7月17日(水) 15:00~17:00

- ① <ハッピーボーンについて>
 - ② <君の椅子について>
 - ③ <デマンドバスについて>
- 於 愛別町役場

視察目的

- 人口減少が進む中で、まちの活性化のために取り組んでおられる事業を学ぶため。

視察経過

- 愛別町は、北海道のほぼ中央に位置し、南西にある旭川市まで車で30分の距離にあります。
- 昭和36年に人口9,700人で町制が施行されましたが、現在は2,700人です。
- 産業は、米、畜産、きのこで、特に、きのこは、北海道一の生産量を誇っています。

① <ハッピーボーンについて>

- 「ボーン」とは花火の音のことです。
- 子どもが生まれることはめでたい。ならば花火を上げてみんなで祝おうと平成2年から有志で実施しています。
- 愛別町独自の取り組みです。
- H30年には11発打ち上げました。
- 一発当たり4千円掛かりますが、町から補助金はもらっていません。自分たちで賄っています。



② <君の椅子について>

- 右のようなちっちゃな椅子を、赤ちゃんに贈る取り組みです。H22年に始めたとのこと。
- ちっちゃな椅子ですが、赤ちゃんが大人になって座っても壊れない頑丈な作りになっています。
- 1脚当たり3万円しますが、町が負担します。H30年には15人の赤ちゃんに贈られました。
- この取り組みは、北海道大学の磯田ゼミで発案されました。きっかけは、愛別町の一発の花火でした。
- 磯田教授は「夜空を焦がす10万発の花火もすごいけど、北海道には赤ちゃんが生まれる度に1発の花火を打ち上げてその誕生を祝う町があり、1発の花火に込められたぬくもりは、10万発の花火にも引けを取らないもの」と愛別町を紹介しました。
- 「子どもが誕生する喜びを共に分かち合える地域社会でありたい」という願いが根底にあります。
- 「生まれてきてくれてありがとう。君の居場所はここにあるからね」という思いが「君の椅子」に込められています。



③ <デマンドバスについて>

- 前日予約で運行。
- 免許返納者には5年間、タクシーチケットを出す。
- 路線バスとデマンドバスは競合しないようにしている。
- 愛別町に「愛別町地域公共交通会議」を設置している。
 - ・ 構成員は19名で、その内13名は各校区の長です。
 - ・ いわゆる学識経験者や、警察、道路管理者はメンバーに入っておられません。
 - ・ 年2回開催し、地域の声をくみ上げておられる。

視察感想

<ハッピーボーンについて>

<君の椅子について>

- 愛別町は、年間十人の子どもさんが生まれます。
- 倉吉市では、年間400人誕生します。花火だと160万円。椅子だと1,200万円掛かります。
- まちの活性化は、箱モノだけではなく人々の豊かな心も、まちを活性化させると実感しました。
- 倉吉市も「君の椅子」事業に取り組んでほしいと思いました。

<デマンドバスについて>

- 地域の実情を細かく把握して、住民の利便性を向上させる必要性を感じました。

佐々木
米田
議長
副議長



令和元年7月18日(木) 13:30~14:30

① <ふるさとに学ぶ産業教育について>

於 稚内市立宗谷中学校

視察目的

- 「産業教育」とはどのようなものを学ぶため。

視察経過

- 学校で説明を受けました。
- 漁業の町でありながら、実際に漁師の体験をする子どもは少ないということでした。
- 地域の基幹産業である漁業に目を向けさせることが産業教育の目的だと言われました。
- 地元で採れる、タコ、ホタテを燻製にし、1パック300円で販売する実習も行っている。
- 全校生徒数は28人で、全員がタコの足を切ったりスライスしたり、作業を行う。
- こうした授業は、昭和43年から続いている。

視察感想

- こうした授業を、高校ではなく中学から始めることは良いと思います。
- 自分の将来を早い段階で意識することができればそれに合った能力をじっくりと身に着けることが出来ます。
- 倉吉の中学校も、全員が東大を狙うような授業ではなく、それぞれの個性や持ち味が生かせるような授業が必要だと、実感しました。



教 頭	佐 々 木	米 田	教 育 委 員 会	数 学 作 業 先 生 当 当	校 長
--------	-------------	--------	-----------------------	--------------------------------------	--------



* イカの足の燻製



* タコの足のスライスをしている



令和元年7月18日(木) 15:00~16:30

- ① <放課後学カグン塾について>
- ② <第二次稚内市こどもの読書活動推進計画について>
於 稚内市役所

視察目的

- 子どものためになる教育とはどのようなものを学ぶため。

視察経過

- 稚内市は、昭和24年に市制を施行し、昭和50年には人口は55,000人でしたが現在は33,000人です。
- 沖合漁業を中心に賑わったが、漁業専管水域200カイリ、日ソ漁業交渉による漁獲割り当て等で市内経済は壊滅的な影響を受けた。
- しかし、最近では、沿岸漁業の振興に努め、ホタテ貝、昆布の養殖で若い人が多くの収入を得るようになってきた。
- また、日本最北端と言うネームバリューを活かし、間宮林蔵、宗谷岬から40km先のサハリンへの玄関口等、地元にある観光資源を生かした取り組みで、少しずつ復興している。



- ① <放課後学カグン塾について>

- 全国学力・学習状況調査の結果が、全国・全道平均と比較して低位にあり、この状況が長年にわたり続いており、特に大規模校において顕著で小学校3年生から学力に差が出るのが分かったため、H25年度からこの事業に取り組んだとのことであった。
- この塾は、学校の中にあり、無料です。
- 市の予算はH30年度で19,246千円で、この中から塾の指導員8名と、補助員3名の賃金18,746千円を賄っている。*実際には、あと2名の指導員が必要だといっておられました。

(写真上、右側)

- ② <第二次稚内市こどもの読書活動推進計画について>

- これは、国の施策に基づいて行っている事業です。
- 基本理念は、子どもたちが本と出会い、知識を深め、豊かな心を育むための読書環境づくりです。
- そのためには、家庭、地域、学校、幼稚園、保育園、図書館が連携する必要があります。

視察感想

- ① <放課後学カグン塾について>

- 少人数学級が、学力向上に大切だということが実証されています。倉吉の学校統廃合は、子どものためにならないと言うことが、よくわかります。

- ② <第二次稚内市こどもの読書活動推進計画について>

- 本を読めば、ポイントがもらえると聞いた取り組みが必要です。

